

釧路市教育委員会 令和7年第5回2月定例会会議録

1 日時：令和7年2月14日（金）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、靱山委員、大山稔彦委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、小西教育政策主幹、齊藤総括指導主事、佐藤青少年育成センター所長、渡部給食担当主幹、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、曽根美術館長、秋葉博物館長、竹内スポーツ課長、鈴木動物園長、平野ふれあい主幹、北村阿寒生涯学習課長

4 議事録署名人 山口委員 大山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

（1）新給食センターの運用開始について

（2）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) 新給食センターの運用開始について

(渡部給食担当主幹)

報告事項1、新給食センターの運用開始について報告する。

令和5年7月から建設に着手していた「釧路市学校給食センター」が、本年1月24日をもって竣工し、4月9日より給食提供を開始する。児童生徒に対する給食提供は、これまで、釧路地区については小学校・中学校の各給食センターより、また、阿寒地区については阿寒町学校給食センターより、さらに、音別地区については、自校方式により、それぞれ対応してきたが、このたびの新給食センターの完成により、市内全ての小中学校等へ、一つの施設から、統一した献立で給食を提供できることとなった。

施設の概要としては、調理能力は1日に11,000食、学校給食法の規定に基づく「学校給食衛生管理基準」に適合し、細菌や黴（かび）の繁殖を防ぐ床面ドライシステムを導入、汚染作業区域と非汚染作業区域を部屋単位で明確に区分し、食材や作業動線が交差しない調理動線計画に配慮する等、衛生管理を徹底したものとなっている。

また、給食の配送にあたっては、特殊断熱材を内蔵した二重構造の食缶を用いて、適温に保たれた状態で、最も離れた阿寒湖義務教育学校までも、先頃開通した道東自動車道を利用し、約80分で配送する。食物アレルギー対応については、安全性を最優先とし、学校や保護者と緊密に連携した、丁寧な対応が必要と考えており、具体的には、専用調理室を設け、代表的なアレルゲンである乳（にゅう）と卵の除去食を、令和8年度から提供できるよう、準備を進めていく。

さらに、給食施設の一元化を機に、日々の献立においても、音別産の「蒨」や阿寒湖産の「わかさぎ」、釧路産の「昆布」や「タラ」といった釧路ならではの地元食材を活用した、「ふるさと給食」の一層の魅力化を図っていく。

また、給食費については、これまで3地区において個々に設定されてきたものを、保護者負担額を最も低廉な音別地区の額に統一する。

今後のスケジュールとしては、給食提供は、新年度の1学期、小学校及び義務教育学校が4月9日から、中学校は翌10日から開始し、また、既存施設である、小学校給食センター・中学校給食センター、阿寒町給食センターの3施設については、令和7年度中に解体することとしている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

処理能力が11,000食ということであるが、新年度の児童生徒数および教職員数はわか

るか。

(渡部給食担当主幹)

令和7年度は、小学校で約5,500人、中学校で約3,200人の児童生徒数となる予定である。給食数の調理能力は11,000食ということで、概数になるが、教職員数は小・中学校合わせて1,100食をみている。加えて、給食については予備食というものを毎日用意しており、各クラスに約3人分、職員室にも約3～5人分用意している。その予備職分だけでも900食程度になる。釧路市の給食センターでは、鶴野支援学校へも給食を提供しており、その分が200食程度で、それを合算したものを調理の数字として概算している。

(山口委員)

施設の設備から最大どのくらいの給食を調理できるのか。11,000食が限界なのか。

(渡部給食担当主幹)

11,000食を最大として、その数字に則った設備の準備をしていることから、これより増やすとなるとコンテナや食缶等を新たに購入し、場所についても調整が必要となってくる。

(靱山委員)

食物アレルギー対応が、令和8年度からとなっているが、これはどのくらいの給食数に対応できるかわかっているか。

(渡部給食担当主幹)

100食程度を予定している。

(靱山委員)

その中で今後どのくらい必要かを決めて作っていくということか。

(渡部給食担当主幹)

そのとおりである。

【公開案件】報告事項

(2) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項2、学校の現状について報告する。

今年度の教育講演会が2月8日にコーチャンフォー文化ホールで開催された。教育委員の皆様にもお越しいただいたが、講師には元プロ野球選手で現在は野球解説者としてテレビやラジオでも活躍している鶴岡慎也氏をお招きした。演題は「夢を叶える準備」と題しておおよそ60分間、その後MCを交えてのトークショー形式で、会場の小中学生や保護者、一般市民の方々からの質問にも答える形で進行し、気付けばあっという間の90分間であった。当日は教職員、小中学生、一般市民、あわせて500名を超える参加者があった。

鶴岡氏は講演の冒頭で「今日、1番皆さんに伝えたい事は、相手へのリスペクト（尊敬、敬意）」ということを力説され、自身のプロ野球選手になるまでの成功体験や挫折体験をもと

に、なりたい自分の姿を描いたら明日から必ずすることを決めて、その自分との約束は必ず守ることが大切等のことや、さらに「コーチングとティーチングの違い」や「キャッチングもバッティングも自分が入団した当時とは技術も理論も大きく変わってきている」とキャッチャーミットやバットを使つての実演を交えながら説明され、「教育も同じことだと思うが、経験のみに頼らず常にアップデートが必要」と、まさしく謙虚に、学び続けることの大切さを説かれた。60分の講演のあとのトークショーでは、小中学生をはじめ一般市民の方も含めて多くの方がフロアから直接質問をされたが、鶴岡氏はその一つ一つにユーモアを交えながら丁寧にお答えになり、リスペクトの体現を見せていただいた感じがし、参加した子供から大人まで、全ての年代や立場の方々にとって非常に学びが多く、大変有意義な内容であった。講演後のアンケートでも100名を超える方々から回答があったが、ほぼ全ての方が非常に楽しく、ためになる講演だったと感想を述べていた。

釧路市標準学力検査の結果を踏まえて、現在、すべての学校を対象に個別に学力向上協議を行なっている最中である。これについてはまともたら報告したいと思う。今回の結果と取組を検証して、さらに学力向上、授業改善、教員の指導力向上に努めて参りたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(大山委員)

大変良い講演会で、私も感激しながら聞いていた。説明にあったように、先生方にとって何を学ばなければならないのが大事なことで、アップデートしなければならないという話を、ぜひもう一度校長会でもしていただき、校長先生から各校の先生方へ鶴岡氏がそういった話をしていたということを、伝えていただけると有難いと思っている。

(靱山委員)

とても盛り上がり充実した講演会で、私自身も考えるきっかけをいただいた。信頼にもあるように、アンケートの中学生の意見で、上を目指すことや、自分との約束を守る等、人生の教科書のような話だったという声があり、本当に心に響いているということがわかり、キャリア教育にもつながる内容だと思った。子どもから大人まで楽しめる講演会であった。

(小出委員)

楽しい講演会で、信頼に書かれているとおり、授業改善につながる考え方であると思いながら聞いていた。講演会に参加していた人から、メモをとりながら聞いている方が何人もいて、先生方もメモをとって一生懸命聞いていたという話を聞き、先生方の心にも響いたのではないかと思った。また、野球同好会の子たちも来ていて、指導者も一緒に来ていたと思うが、部活動の指導等にもつながる良い考え方なので、参考になったのではないかと思った。また鶴岡氏が子どもたちに、納得がいけないことは「はい」と言わなくて良いということ話を話していて、子どもたちにとって、とても大事なメッセージだったのではないかと思い、それを大人が聞いて、大人がそれについて考えるということもとても大事なことでないか

思い、学びの多い講演会だったと感じた。

（山口委員）

講師の方の選定については中々難しいと思うが、今回のように私たち教育関係者や子どもたち、一般市民の方等どの参加者が聞いても良かったと思えるような講演会を今後もぜひ実現していただければと思う。

（岡部教育長）

大いに盛り上がり、市民も含めて喜んでいただけたことは大変良いことである。今後も教育講演会の趣旨を踏まえながら、開催に向けて検討していく必要がある。